

悩まなくてもだいじょうぶ

知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会
代表 園部まり子

子どもたちのために



イラスト／清水直子

第31回

医師の集まりに参加

「母の会」も患者の

立場から課題を報告

医師になってからも先生方が研さんする集まりに、医学会があります。「母の会」は発足以来、日本アレルギー学会の春季臨床大会や秋季学術大会、小児アレルギー学会、小児難治喘息・アレルギー疾患学会などアレルギー分野の学会にできる限り参加して、病態や信頼性が高い治療について理解を深めるとともに、日頃お世話になっている先生方と懇談、ご指導いただき、はずれない活動を期しています。もう10年以上参加し続けていますが、医療は私たちの目にもはっきりとわかる速いスピードで進歩しています。先生方が真剣に論議する姿に接して、アレルギー

ギーの子どもたちの将来に希望がわくこともしばしばです。

また最近の学会では、いわゆる「チーム医療」が重視されるようになり、看護師や栄養士、保健師などに向けた企画も増えて、その末席に患者会や患者支援者の参加を認めていただける学会も増えていきます。

さらに進んで、患者の声を医療に生かす取り組みも増えてきました。「母の会」もここ数年、こうした機会を仰せつかることが増え、今年に限っても、今月行なわれる小児難治喘息アレルギー疾患学会、9月に行なわれる小児アレルギー学会などのシンポジストに招かれ、多くの先生方や看護師などコメディカルの方々に、患者から見た医療の課題、先生方には見えない学校や保育所の



そのべ・まりこ ● 神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行なっている。共著に『食物アレルギーの手びき 改訂第2版』（南江堂刊）。

課題などについて報告する予定です。

「一人じゃない」と喜び合い 輝くお母さんたち

学会では嬉しい出会いもあります。先月、普段は電話やメールで連絡を取り合っているお母さんたちと、大阪で行なわれたアレルギー学会の会場で再会しました。一人一人はきついアレルギーの子を抱え、時にはつらい思いをしているはずなのに、集まったお母さんたちは旧知のように喜び合い、お互いの労をねぎらい、信頼できる先生方からの励ましのシヤワーを浴びて、一段と明るく輝いていました。そんなお母さんたちの笑顔エネルギーに、私も学会で得た知識を一人でも多くの患者さんのために生かしていきたいと思えます。